

令和3年度 学校評価報告書

1 今年度の達成目標

学校教育目標「グローバル人材の育成」 今年度の重点目標「共生的な態度の育成・主体的な態度の育成」
※今年度は、グローバル人材の基盤となる多様性を理解した上での行動力「共生的な態度の育成・主体的な態度の育成」を達成目標とした。

2 今年度の重点方策

<p>< 1 共生的な態度の育成 人を大切にする子 > ① 一人一人のよさ・可能性を認め、生かし合う集団づくり ② 挨拶や礼儀、さまりの意味を考えさせる指導 ③ 「分かった・できた」を実感させる学習活動 ④ 「地域を知る・地域にかかわる」学習活動</p>	<p>< 2 主体的な態度の育成 自分で考えて行動する子 > ① 自分で考え表現する場のある(力をつける)授業づくり ② 子どもに任せる場、挑戦させる場の設定 ③ 体育科の授業を通して、運動量の確保と日常的な体力づくり ④ 災害・感染の理解を深める指導、定期的な訓練</p>
<協働> 職員同士、保護者・地域・関係機関とつながり、地域に開かれた安心・安全な学校づくり	

3 重点方策の現状(自己評価)

<p><共生的な態度の育成> ①の方策について(取組と成果 評価「B」) ・校外学習、宿泊学習、児童会行事等の特別活動を感染対策を講じながら実施でき、多様な集団活動を通して、個のよさに気付かせることができた。 ・特別支援学級との交流授業、車いすバドミントン選手との交流授業、地域のお年寄りとの交流授業(書き初め)を実施し、交流を通して多様性の理解が促進できるよう努めた。 ・保護者・児童アンケート結果から育成されていることがわかる。コロナ禍ではあるが、工夫して特別活動を実施し育ててきた結果ととらえるが、今後も個に応じた支援が必要である。</p> <p><主体的な態度の育成> ③の方策について(取組と成果 評価「C」) ・体育発表会を実施し、保護者に日頃の運動の成果を発表する場を設けた。また、各種体育カードを活用し、主体的に運動ができるよう意欲付けを行った。 ・水泳授業の中止、ジャングルジムの使用中止等、子供の体力づくりにかかわる制限が多く、十分な取組が行えなかった。保護者・児童アンケート結果も最も低い評価である。</p> <p>④の方策について(取組と成果 評価「A」) ・定期的に避難訓練(告知在り、告知なし、授業中、授業時間外等)を実施し、一人一人が自分で考え、安全に身を守る行動ができるよう、訓練の積み重ねを大事にした。 ・各学年の発達段階に応じて、柏警察と連携し「交通安全教室」「救命講習」を実施した。 ・コロナ感染対策では、「10の約束」の掲示や消毒機器の配置等環境を整えた。 ・アンケート結果は高い評価である。感染防止、災害時の動きについては、自分で考え行動できるようになっている。</p> <p><協働> 方策について(取組と成果 評価「B」) ・学校の様子を知る機会として、学校だよりやHPで教育方針や活動の情報発信に努めた。保護者のアンケートでも高い評価をいただいた。 ・地域の方と顔の見える関係を目指し、地域・保護者と共同で防災研修を実施したり、学校運営協議会で協議を重ねたりしてきた。保護者・地域の方のご協力により環境整備ができた。 ・保護者に実際に学校の様子を参観いただく機会が少なかったのが課題である。</p> <p>※アンケート結果の数値、他の方策の評価については、添付資料参照</p>
--

4 「4つのC」に関する取組(自己評価)

- ・関わり合う力
重点目標「共生的な態度の育成」の取組と連動させた。子供たちに育成されつつあるが、今後も個に応じた支援が必要である。
- ・挑戦する力
重点目標「主体的な態度の育成」の取組と連動させた。委員会活動や係活動等の自治的な活動や多様な集団活動の場で、自分たちで行動できるよう支援してきた。言われたことはまじめに一生懸命に取り組む児童が多いが、自ら課題を見つけて改善にむけて行動する力に課題があり、成功体験を通じて今後も育成していきたい。

5 学校関係者評価【評価日 令和4年3月7日 評価者 学校運営協議会委員】

評価結果	改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの挨拶は、年々よくなっている。取組の成果を感じる。 ・交流授業は、学校だからこそできることである。満足度も高評価なので今後も機会を設けてほしい。 ・地域の方が学習支援にかかわっているのが良い。 ・学年が上がるにつれ、読書活動が減ってきている。グローバル人材の育成の点で、読書活動は大いに力を入れてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体性を高める学習活動を取り入れる。 ・学校評価の中に、柏五中学校区3校の共通項目をいれると良い。 ・地域・保護者が進んで参加する教育活動を増やしていく。 ・教員だけに任せるのではなく、学校にカウンセリングを専門とする外部人材を増やしていく。 ・教職員の指導力向上のために、地域が教職員の実践を褒める機会をつくる。

6 評価に関する総括(自己評価)

コロナ禍ではあるが、工夫して特別活動を実施し、児童の活動を中心にして学校生活を創り上げていこうとする機運が高まってきている。また、本校の授業研究テーマである「思考力・判断力を育成する指導法の工夫」をふまえた取組が、授業の枠にとらわれず学校教育活動全般にわたって、児童一人一人に考えさせ表現させる場作りにつながり始めている。しかし、まだまだ育成途中であり、児童主体の授業改善をしていかなければならない。

「グローバル人材の育成」の点で、学校に協力的な地域の存在を、十分に教職員や児童に実感させることが難しかった。いかにして、地域に出ていく活動だけで終わらせず、地域に意識を向けさせるか、さまざまな教育活動の計画において位置づける必要がある。

体力向上については、環境、場づくりができなかったのが大きな要因である。安全のため、撤去せざるを得なかった体育遊具2つについては、早急に新たな設置にむけて要望したい。

7 次年度に向けての改善課題

- ・教職員各自が学校教育目標に掲げられている意味を再度理解し、達成に向けて、これまでの取組を見直し次年度に向けた取組を進めていく。
- ・児童主体の授業へと質が一層深まるように、研究組織の機能を向上させ、授業力の向上につなげていく。
- ・児童自身による課題解決力の育成を目指し、特別活動の目標設定や評価の視点を明確にし、成就感や満足感を教職員・児童共に感じられるようにする。
- ・地域に支えられていることを児童が実感できるようにし、児童が意欲をもって地域にかかわれるように活動の内容や方法の見直しを図る。
- ・児童の体力向上につながる体育的遊具の早急な設置を要望する。